

B工区の状況

進捗内容

- ・ A工区の進捗に伴い進入路を造成済み
- ・ 現在は進入路隣の廃棄物土掘削中



施工写真

- ① 進入路 造成 (掘削)
- ② 進入路 造成 (鉄板敷設)
- ③ 廃棄物土 掘削

詳細調査ボーリング ①

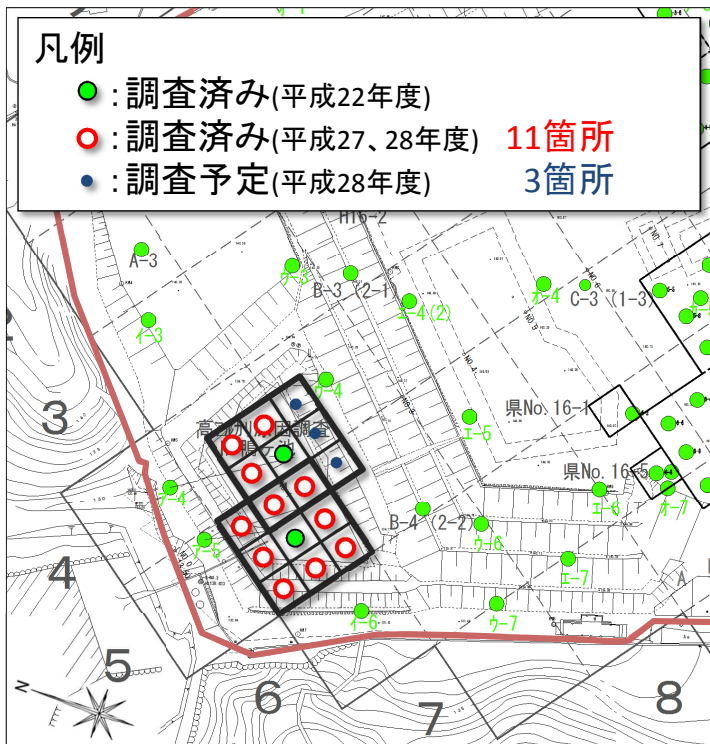
(B工区)

概要

- ・ 平成22年度の一次調査によって「ひ素」または「ほう素」が土壤環境基準を超過して検出された点の周辺14箇所を調査
- ・ 調査済みの**11箇所**について報告、残り**3箇所**は実施次第報告予定

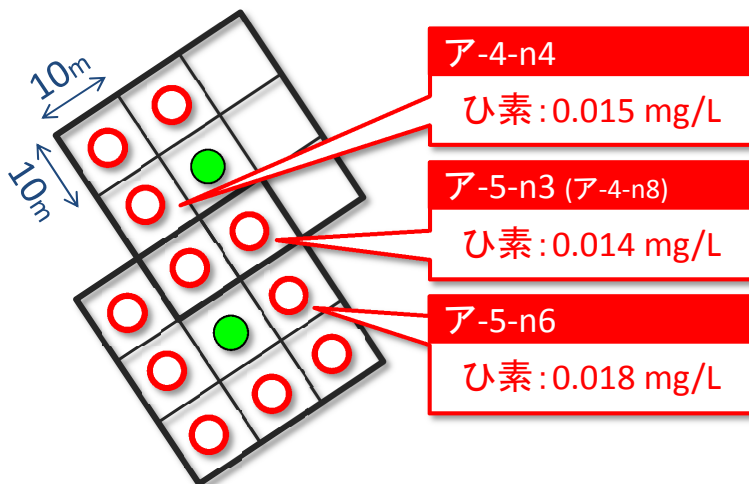
凡例

- : 調査済み(平成22年度)
- : 調査済み(平成27、28年度) **11箇所**
- : 調査予定(平成28年度) **3箇所**



結果(中間報告)

調査した**11箇所**のうち**3箇所**で「ひ素」が基準値を超過して検出
「ほう素」は基準値未満



※土壤環境基準 ひ素: 0.01 mg/L 以下

詳細調査ボーリング②

廃棄物土分析(溶出量試験)結果一覧表 (中間報告)

溶出量試験		(混合試料)		(個別試料)	
地点名	項目	ひ素	項目	ひ素	
	環境基準値 深度	0.01 (mg/L)	環境基準値 深度	0.01 (mg/L)	
ア-4	-n1	0.00~3.00	(地山)	-	-
	-n2	0.00~1.83	0.003	-	-
		1.83~5.33	(地山)	-	-
	-n3	(今後調査予定)			
	-n4	0.00~4.03	0.007	0.00~3.00	0.006
		4.03~6.03	(地山)	3.00~4.03	0.015
	-n5	1.97~4.70	0.009	1.97~3.00	0.007
				3.00~4.03	0.014
				4.03~4.70	0.006
-n6	(今後調査予定)				
-n7	ア-5-n2に同じ				
-n8	ア-5-n3に同じ				
-n9	(今後調査予定)				

溶出量試験		(混合試料)		(個別試料)		
地点名	項目	ひ素	ほう素	項目	ひ素	ほう素
	環境基準値 深度	0.01 (mg/L)	1 (mg/L)	環境基準値 深度	0.01 (mg/L)	1 (mg/L)
ア-4	-n1	0.00~6.97	0.006	0.1	0.00~3.00	0.006
		3.00~4.54			3.00~4.54	0.004
		4.54~6.97			4.54~6.97	0.001
		6.97~7.54	(地山)	(地山)	-	-
ア-5	-n2	0.00~7.37	0.007	0.1	0.00~3.00	0.004
		3.00~4.54			3.00~4.54	0.007
		4.54~7.37			4.54~7.37	0.002
		7.37~11.08	(地山)	(地山)	-	-
ア-4	-n3	0.00~5.54	0.013	0.2	0.00~3.00	0.01
		3.00~4.54			3.00~4.54	0.014
		4.54~5.54			4.54~5.54	0.006
		5.54~8.94	(地山)	(地山)	-	-
ア-5	-n4	0.00~1.87	0.001	0.1	-	-
		1.87~7.54	(地山)	(地山)	-	-
ア-4	-n5	0.94~4.03	0.007	0.12	0.94~1.97	0.006
		3.00~4.03			1.97~3.00	0.005
		4.03~4.54	0.014	1.1	3.00~4.03	0.012
					4.03~4.54	0.014
					4.03~4.54	0.014
ア-4	-n6	0.00~3.40	0.018	0.2	0.00~3.00	0.006
		3.40~6.90	(地山)	(地山)	3.00~3.40	0.006
					-	-
ア-4	-n7	0.00~3.51	0.001	<0.1	-	-
		3.51~7.54	(地山)	(地山)	-	-
					-	-
ア-4	-n8	0.00~5.37	<0.001	<0.1	-	-
		5.37~7.54	(地山)	(地山)	-	-
					-	-
ア-4	-n9	0.00~2.61	0.001	0.10	-	-
		2.61~7.54	(地山)	(地山)	-	-
					-	-

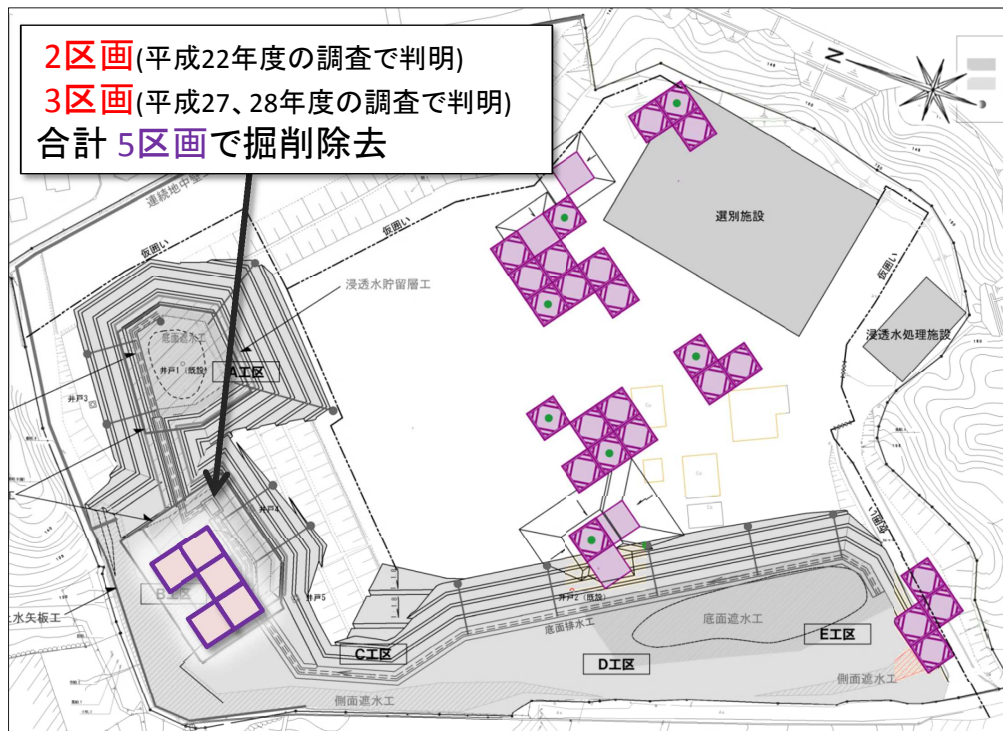
基準標高 EL=129.84m

- : 環境基準値超過
- : (環境基準値/混合数)を超過
- : 分析対象外

詳細調査ボーリング③

今後の対応

- ・ 基準値を超過して検出された箇所は他の有害物区画と同様に掘削し除去
- ・ B工区の掘削に併せて場外へ搬出



詳細

搬出時期: 平成28年12月～
 搬出量: 約850m³ (想定)
 搬出方法: 掘削、仮置きしたのち積込搬出



撮影日 平成26年6月6日

高アルカリ排水の原因物掘削箇所

概要

- ・旧RD社が高アルカリ排水の原因物を除去するために掘削を実施(平成14年8月～10月)



詳細

【平成14年 高アルカリ排水原因物掘削】
 原因廃棄物: セメント系廃棄物(除去済み)
 分布範囲: 左図のとおり
 原因物標高: EL=130.0m程度

今後の対応

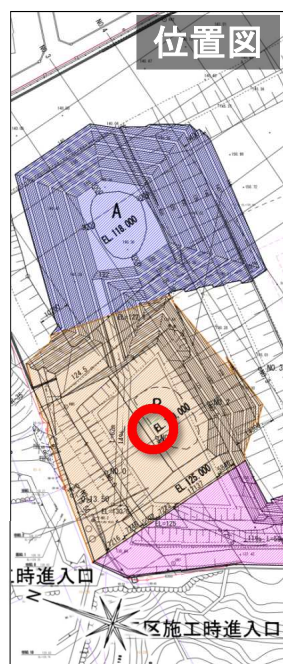
- 【原因物が見つかった箇所について】
- ・B工区の掘削範囲内であり
 標高EL=122.0m程度まで掘削する
 - ・掘削現場には監視員が常駐し
 目視で確認しつつ作業を進める
 - ・特異な廃棄物等がさらにあつた場合は
 性状を確認し除去予定
 - ・掘削時期は平成29年1月頃(予定)

12

硫化水素

概要

- ・A工区への進入路に設置した敷鉄板の下において微量の硫化水素を検出



詳細

検出期間: 平成28年10月1日～(現在)
 場所: 敷鉄板下部を流れる浸透水上
 濃度: 3.0ppm前後 (最小 0.0、最大 8.0ppm)
 状況: 現在のところ周辺環境と
 作業環境に影響なし



対応(第8回連絡協議会 資料1「二次対策工事のリスクと対応(工事中)」のとおり)

- ・作業員は警報機付ガスモニターを携帯し常時測定
- ・周辺環境、作業環境に影響のおそれがある場合に除去剤等で対応

⇒ なお、今後に備え試験的に「除去剤と真砂土を混ぜた土のう」を浸透水のしみ出し箇所に設置し抑制効果を現在観察中

13

廃石綿等の掘削

概要

- ・B工区の廃棄物土掘削において袋に入った**廃石綿等**を発見

発見時の状況



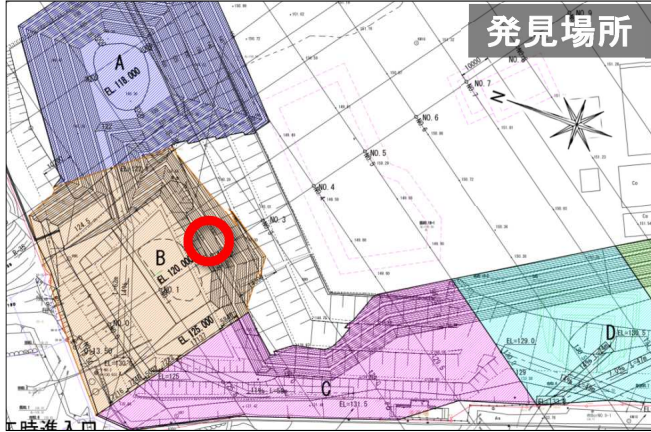
梱包袋に入っていた



詳細

- 発見日:平成28年12月8日
 場所:左図のとおり
 数量:梱包袋で約40袋
 総量 4m³ (フレコンバック4袋)
 状況:周囲は砂とブルーシートでした

発見場所



再梱包の様子



対応

- ・フレコンバックで再梱包し場内の仮置きヤードに保管(2重袋かつUVシートで保管)
- ・管理型埋立処分の予定

14

C工区、D工区、E工区

進捗状況

- ・浸透水の水位よりも高い範囲の廃棄物土を掘削中



施工写真

- ① 廃棄物土掘削 (C工区)
- ② 法面キャッピング (C工区)
- ③ 廃棄物土掘削 (D工区)



今後の対応

- ・C工区、D工区に続き、E工区も廃棄物土掘削に着手予定

15

ドラム缶等の掘削

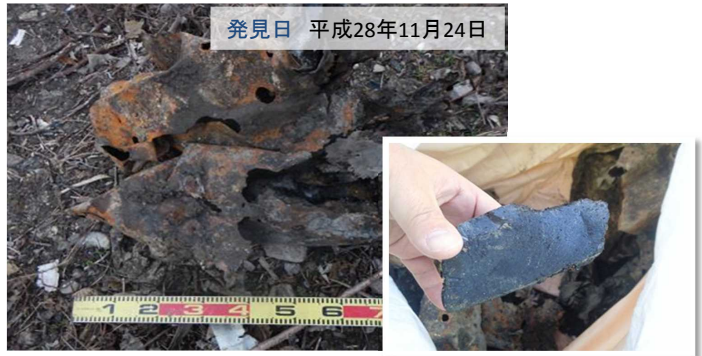
概要

・B、D工区の廃棄物土掘削において10個のドラム缶と2個の一斗缶を発見



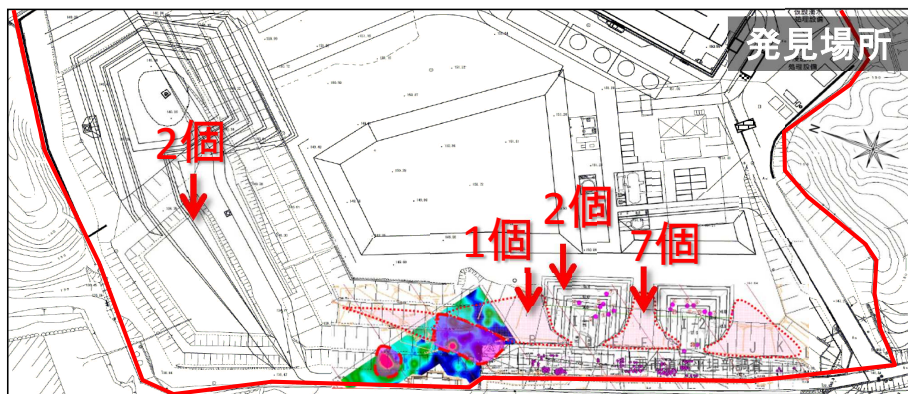
内容物

・固まった樹脂のような廃棄物



内容物

・タール、ピッチ類等



凡例

- ドラム缶の想定分布範囲
- ドラム缶の分布が懸念される範囲
- 既往調査でのドラム缶分布範囲
- ↓ 二次対策工事での発見場所

今後の対応

- ・仮置きヤードに保管
- ・焼却処分の予定

二次対策工事土工・処分実績(平成28年11月末現在)

項目		数量	単位	前回(7月末)との差	
仮置物撤去土量		21,300	m ³	±0	
A工区他掘削土量		73,800	m ³	+23,100	
埋戻可能物仮置土量		84,400	m ³	+17,100	
埋戻再生資源		13,700	m ³	+2,900	
場外への搬出・処分量	廃棄物	可燃物(主に廃プラスチック類で木くず等が混じるもの)	13,000	t	+3,800
		不燃物(ガラス陶磁器くず、金属くず)	810	t	+190
		有害物(掘削由来:バッテリー、感染性廃棄物相当物)	7.9	t	+1.7
		有害物(場内残置物:バッテリー、変圧器等)	0.8	t	±0
	廃棄物混じりの土	有害物(平成26年度 A-1区画他)	2,800	t	±0
		ドラム缶およびその内容物が浸潤した廃棄物土・医療系廃棄物混じり土	74	t	+7
		鋭利なものを含む等、選別に適さない廃棄物土等	590	t	±0
	選別土等	セメント混合廃棄物土	118	t	±0
		ふっ素が土壤環境基準を超過したもの	3,000	t	±0
	資源化	覆土等で鉛が土壤環境基準を超過したもの	360	t	+360
金属くず		97	t	±0	

選別土 および 覆土等の適合確認分析

適合確認分析

- ・ 300m³毎に分析を実施して埋戻しの可否を判断
- ・ 分析項目はカドミウム、水銀、鉛、ひ素、ふっ素、ほう素、ダイオキシン類、TOC

(平成28年12月9日現在)

項目	数量	単位	前回(第17回協議会)との差	備考
選別土 適合確認回数	224	回	+ 41	
うち不適合判定数	6	回	± 0	不適合項目:ふっ素
覆土等 適合確認回数	43	回	+ 2	
うち不適合判定数	2	回	± 0	不適合項目:鉛

覆土等、明らかに廃棄物の混入が無い土(地山を含む)は選別処理をせずに分析のみを実施
内容の詳細については別紙「適合確認分析の結果について」をご覧ください

結果

- ・ 選別土の不適合率は想定していた10%に対して2.68%と低い